WISH TIMES

「終わりは始まり」

Version 46

January 2022

変化の風

『二年はもう来ていたんだな』とこの時初めて気が付いた。

中野の歴史第二弾：中野に来た象

卒寮RA企画～さようならWISH～

目次

2　変化の風

5　『二年はもう来ていたんだな』とこの時初めて気が付いた。

10　中野の歴史第二弾：中野に来た象

12　卒寮RA企画～さようならWISH～

Writer: Chrisanne
Translator: Moeka
Designer: Honami

変化の風

風は変化の象徴と言われています。風はあなたが、いつどこにいるのかを気づかせてくれるのです。
風に対する感覚が変わる時、あなたは変化しているでしょう。春と夏になると、風はさわやかな空気を運んでくれます。そして葉は踊りながら、光が影でダンスをするのを眺めているかのようです。
秋になると、北西の冷たい風は木から葉を吹き飛ばし、落ち葉の層は積もっていく一方ですし、冬になれば、凍えるような風が、人々に厚着をさせ、動物を深い眠りへと導きます。風のように、WISHの寮生は毎日変化に直面しているなか、多くの寮生は数ヶ月で新しい生活環境という大きな変化に直面します。そこで今回は変化と題して、もうすぐWISHを卒寮する四人の寮生と話してみました。

Reka

now

「最初は、去年の正月は家族と一緒に過ごすことができず、ほとんどの日本人寮生が帰省してしまい、とても寂しくなると思っていたが、これが私のWISHでの一番の思い出になりました。

11階で留学生や帰宅しなかった日本人寮生と一緒に、WISHでお正月を過ごすことにしました。感染症対策に気をつけながら、天ぷらや切り餅を買い、お蕎麦を作って、紅白歌合戦を観ました。初日の出を見るために朝まで起きていた寮生もいたけれど、早寝の私にはできませんでした。

WISHでの寮生活を変えてくれた素敵な人たちと一緒に、カウントダウンができたことは絶対に忘れません。彼女たちのおかげで私は楽しい寮生活を過ごせました！」

Rina

now

「私は新しい人と出会い、友達に囲まれるのが大好きです。ただ、パーソナルスペースを確保することも、私がいつも大切にしてきたことです。それだから私はWISHに入寮することに躊躇していました。

パンデミックにより入寮が6ヶ月遅れたため、WISHでは友達と過ごす時間を大切にしようと思いました。私たちがWISHで初めて出会った頃、私たちは長い間外出できなかった子どもたちみたいでした。日帰り旅行に行き、ムービーナイト、深夜トーク、お互いに料理を振る舞ったり、最初の頃は色んな事がしたくて寝る間も惜しんで楽しみました。くだらないかもしれないが、WISHでやりたいことリストも作り、かなり達成する事ができました！

時間が経つにつれて、お互いの距離が近くなると同時に、お互いのプライベートな空間を尊重することも学びました。時々何も話さずに同じ空間に居ることもあるけれど、家族みたいで、気まずさは全くないです。私はWISHで一生の友達を作ったと自信を持って言えます。

私たちがもうそろそろ一緒に暮らすことを終えるのは悲しいけれど、次の新生活に進むことにもすごく楽しみです。今度からは再会する時にどこで会うか相談するのは変な感じだけれど、引っ越してから楽しみにしていることも沢山あります。ここWISHでの思い出に感謝しています！みなさん、ありがとうございました！」

EK

now

「WISHでの変化について、私のお気に入りの思い出は、リビングで友達と一緒にクリスマスパーティーをした時です。 実家を離れるのは初めてで、WISHに引っ越してから約3ヶ月でした。

色んな料理やおやつを作ったり、友達のプロジェクターを使って映画鑑賞もしました。すごく暖かくて居心地の良い雰囲気で、WISHで初めてアットホームな気分になりました。」

Tharit

now

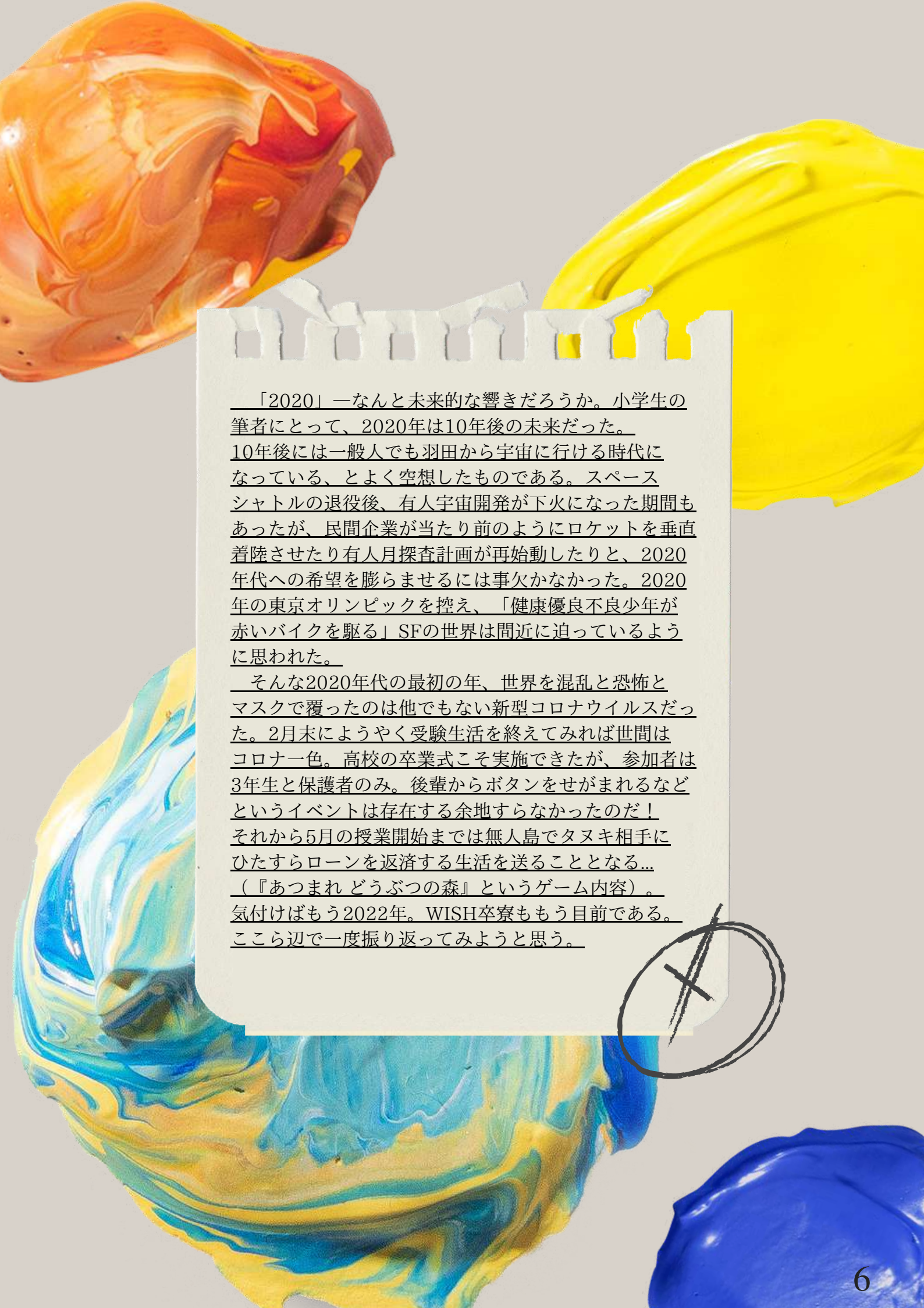
「現地の人に自分の気持ちや考えを伝えることが難しく、初めての国で生活することはとっても怖かったです。それでもWISHで出会えた友達は、新しい環境にいることの辛さを忘れさせてくれました。

私は成長、怒り、愛することなど、色んな経験をしました。「家族」と同じような存在の友達がいてくれたおかげで、私はどんなに辛いことも耐えて乗り越えることが出来ました。私は新しい環境の変化に慣れることに必死だったけれど、WISHのコミュニティはいつでもホッとさせてくれました。」

明るい未来に向かって
羽ばたこう

Writer: Daichi
Translator: Haruki
Designer: Miho

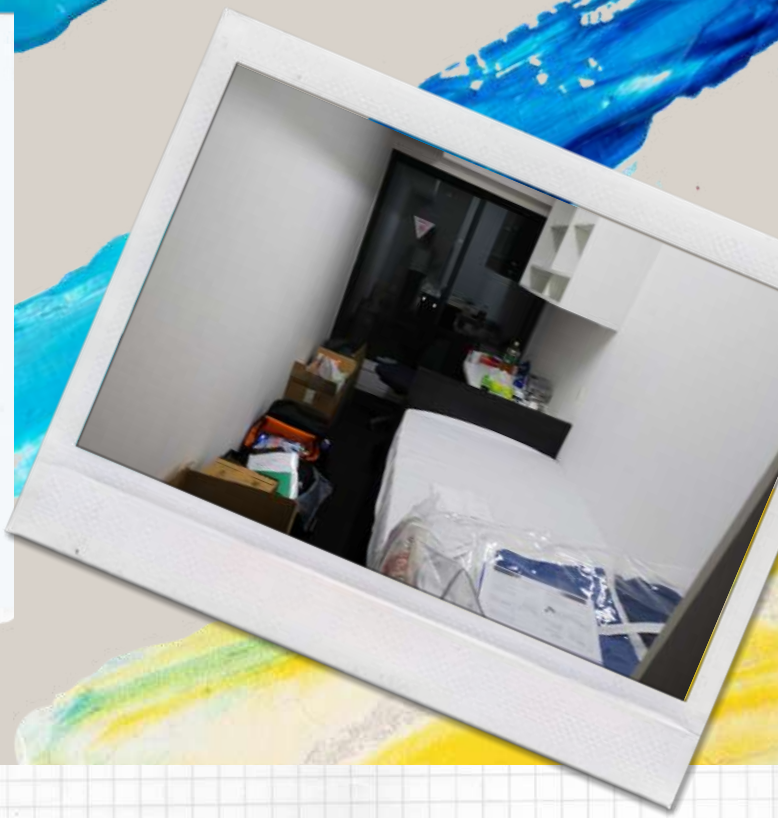
「二年はもう来ていたんだな」
とこの時始めて気がついた。



　「2020」ーなんと未来的な響きだろうか。小学生の筆者にとって、2020年は10年後の未来だった。
10年後には一般人でも羽田から宇宙に行ける時代になっている、とよく空想したものである。スペースシャトルの退役後、有人宇宙開発が下火になった期間もあったが、民間企業が当たり前のようにロケットを垂直着陸させたり有人月探査計画が再始動したりと、2020年代への希望を膨らませるには事欠かなかった。2020年の東京オリンピックを控え、「健康優良不良少年が赤いバイクを駆る」SFの世界は間近に迫っているように思われた。
　そんな2020年代の最初の年、世界を混乱と恐怖とマスクで覆ったのは他でもない新型コロナウイルスだった。2月末にようやく受験生活を終えてみれば世間はコロナ一色。高校の卒業式こそ実施できたが、参加者は3年生と保護者のみ。後輩からボタンをせがまれるなどというイベントは存在する余地すらなかったのだ！
それから5月の授業開始までは無人島でタヌキ相手にひたすらローンを返済する生活を送ることとなる…
（『あつまれ どうぶつの森』というゲーム内容）。
気付けばもう2022年。WISH卒寮ももう目前である。
ここら辺で一度振り返ってみようと思う。

【1】半年遅れの入寮

2020年4月に予定していた入寮は結局9月まで伸びてしまった。一日千秋の思いで待っていた入寮だが、ユニットのドアを開けるとそこには大量の置き土産が。ゴミ袋いっぱいの洗濯物・アメフトの防具・炊飯器・20年前のアルバムの山…挙げればキリがない。これらの片付けに残りの夏休みを費やすこととなる。今思えば充実した日々だったことは確かだ。



【2】手探りの自炊

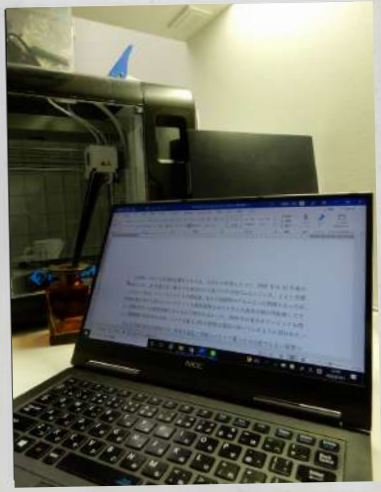
親任せにしていた19年分の代償がこの身に降りかかる。キッチンに立つだけが料理ではない。材料も自分で買い揃えなければならない。料理よりも、こちらの方が案外大変なのではないだろうか。肉などは冷凍保存すれば良いが、やはり野菜は傷みが早い。そこで、~~食費をケチりたかった~~SDGsの崇高な理念に心動かされた筆者は余り物の野菜をぬか床で漬けることにした。手入れは大変だがなかなか美味しいので試してみてほしい。

【3】突然の居室移動

別に後ろ指を指されるようなことをした訳ではない。元々住んでいた7階が次年度から女子フロアに変わるため、当時の7階寮生が居室を移動することになっただけである。居室が変わるのは新鮮で良かったのだが、筆者は半年間で2度も住民票・マイナンバーカード・免許証・学生証・口座情報を変更する羽目になった。

【4】WISH Timesでの執筆

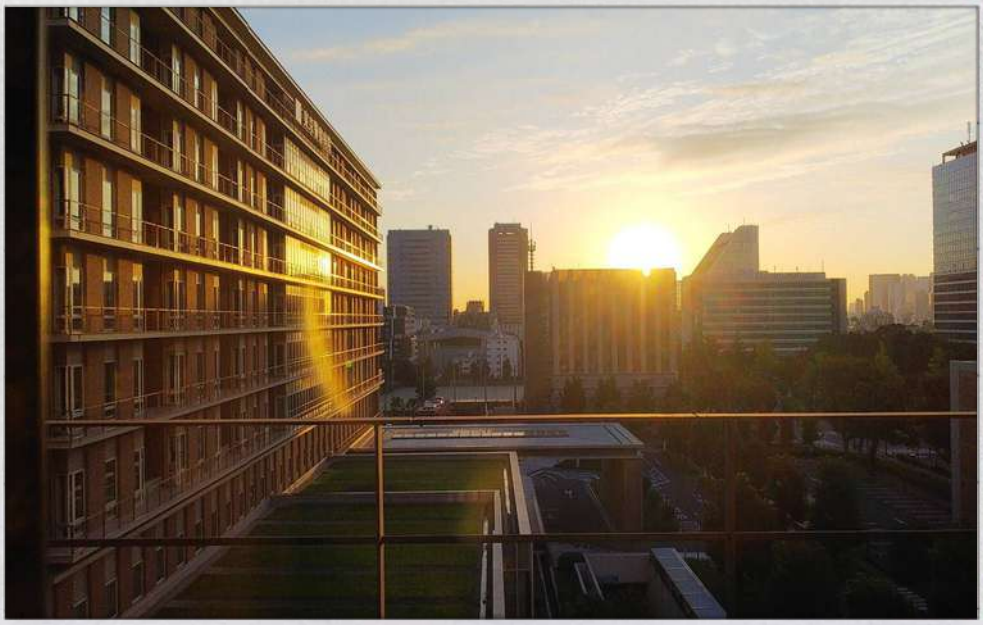
筆者がWISH Timesで記事を書かせてもらうのはこれで5回目になる。中野ブロードウェイに取材をしたり、ある時は寮生の個室の紹介記事を書いたりもした。技術はともかく文章を書くのは好きだったので、このような場があるのは大変ありがたい。執筆そのものだけではなく、公園で朝食を摂りながら編集会議をしたのも良い思い出だ。WISH Timesで記事を書けるのが今回で最後になってしまうのは名残惜しい。



【5】ルームメイトと

今までの寮生活の大部分を占めているのは、何と言ってもルームメイトとの思い出だろう。ルームメイト3人全員が同じ学年であるのも大きかったかもしれない。ある時はボードゲームに夜な夜な興じた。大浴場が使えない時期には銭湯へ行くこともあった。期末試験の時期になれば3人で額を突き合わしてリビングで勉強した。長期休みにはあちらこちらへ出掛けることも多かった。コロナ禍にあって、WISHに住んでいたからこそ送れた大学生活の一幕だった。

ここまで寮生活を振り返ってきたが、いざ言葉にしてしまうと実に陳腐でありきたりな内容に思える。しかし、この「ありきたり」こそコロナ禍では掛け値なしに貴重なものではないだろうか。冒頭の話に戻るが、小学生の筆者が思い描いていた「2020年代」は着実に近付いてはいるものの、到来してはいない。未だに宇宙は宇宙飛行士と一部の富豪の世界である。そんな現状に指を咥えているだけでは癪なので、自ら宇宙機の開発に携わりたい。せめて孫の世代くらいには宇宙旅行を当たり前にしたい―そんな夢を恥ずかしげも無く語れる友人たちに出会えたのもWISHあってこそだ。新型コロナの影響もあり、本来のWISHの魅力を味わい尽くすことは出来なかったかもしれない。だが、そのような時期にWISHで生活できたことには大きなアドバンテージがあると信じている。無論、1年生やこれから入寮する新入生には、今の2年生の分までWISHを骨の髄まで楽しみ尽くして貰えることを願っている。



最後になるが、実家が寮から自転車で5分の距離にある筆者に入寮を許してくれたWISHに心から謝意を述べなければならない。一体なぜ入寮できたのか、いちばん不思議に思っているのは他でもない筆者自身である。

中野の歴史第二弾

中野に来た象

city-tokyo-nakano.jp

Writer: Yui
Designer: Shiki
Translator: Yui

「街の歴史ってみんなの財産だと思うんです。だからみんなで共有して、みんなで楽しんで使うっていう風できたらいいなって思っています。」中村さんは中野の歴史を子供のための紙芝居にしたり、パンフレットを作ったりして、地域の子供に楽しんでもらえるような工夫をしている。今回もそんな中村さんに教えてもらった中野の歴史を紹介する。

2020年12月12日、16:00。エカイエに集まった人々は老若男女問わず『中野の象の検定』を受けに来た。私も前回の記事を書かせていただいたご縁から、その会に招待していただいた。学校、バイト、インターンでは社会人と関わっているが、このような場で関わる機会があまりないので少し緊張したっていうのが本音。アットホームな雰囲気で始まった会は、中村さんが作った象の歴史の台本をみんなで読むところから始まった。

象が中野に来た話はこのように始まる。。。

時は江戸時代、８代将軍徳川吉宗、暴れん坊将軍の時代。
清の国の商人が吉宗に象を献上したいというお達しがあった。吉宗は白い象が見れるのだと思い、喜んだという。

老中の間では、象は無駄なお金がかかるとの意見も上がった。しかし、徳川家康も象をもらったという記録が残っていたことから象を受け入れることにした。

徳川吉宗 - Wikipedia

オスとメスの象の計二頭は1728年に、安南（今のベトナムあたり）から長崎に連れて来られた。ただ、メスの像はしばらくして亡くなってしまう。一頭になったオス象は、長崎から江戸までの距離を歩いて旅に出た。二ヶ月かけて辿り着いた江戸では、吉宗が上覧した後、しばらく浜御殿に飼われていた。

享保の飢饉が始まって、事態は一変する。財政を立て直すために贅沢は禁じられ、その流れで象も幕府の手から離れることになった。

中野に住んでいた源助は、象の飼育員をしていた。その中で、幕府は補助金と引き換えに、源助に象の面倒を頼んだ。源助は象見世物小屋を建て、象のフンを漢方として売り捌いていたが象の人気も日に日に落ちていき、幕府からの飼育料もいつの間にか打ち切られてしまう状態。

1742年の12月11日に象は亡くなってしまう。亡き象の牙は宝仙寺に保管してるのだとか。
ちなみに象の検定は象の亡くなった日に合わせて行われた。

実際に象の小屋があった場所は、中野坂上駅の最寄りにある、大通りから少し中に入ったところにある朝日が丘公園だ。現在では象の歴史が書かれた看板が立っている。

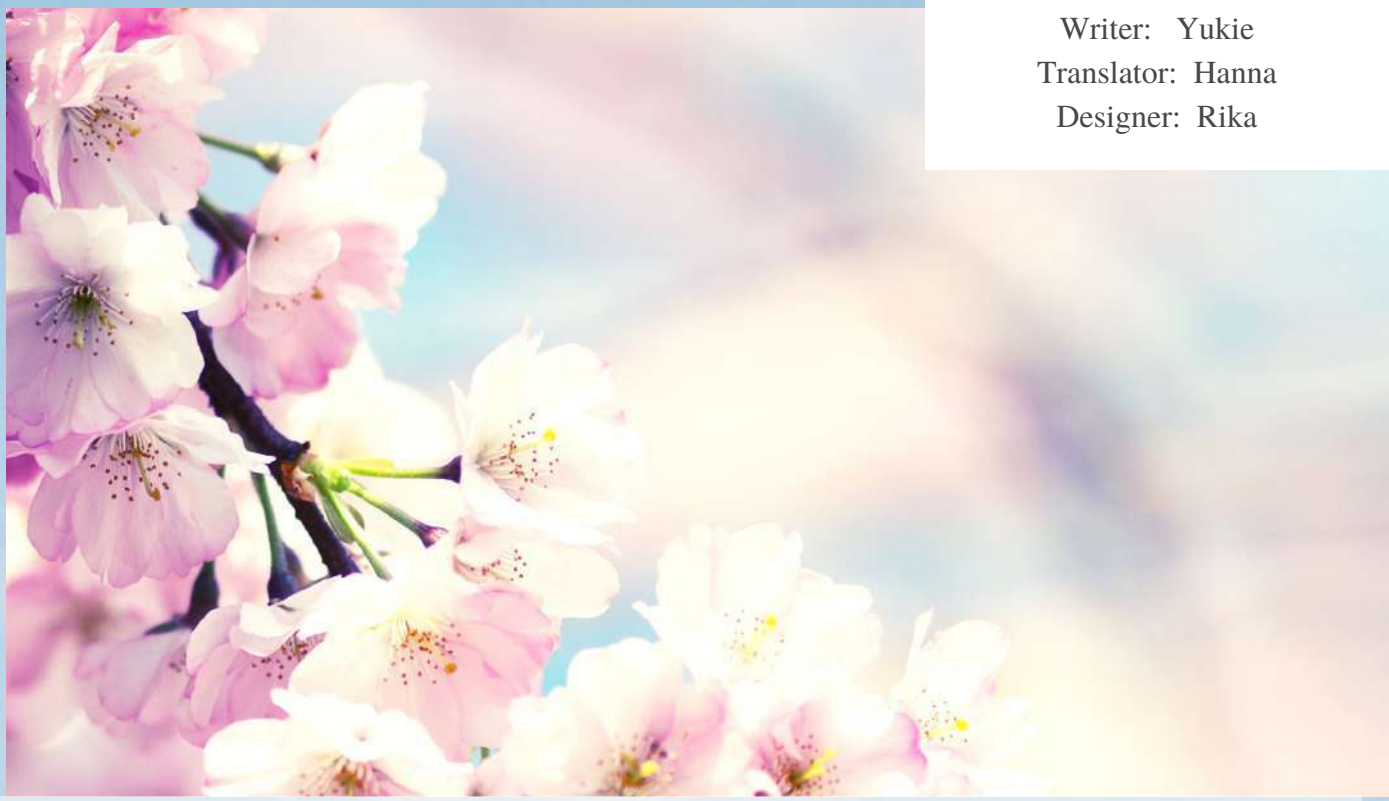
中村さんと数人の方は、人形劇をやっていただけあって、台本を読み上げるプロだった。音読の宿題が嫌いだった私は、間違えずに読み上げるのが精一杯だったが、楽しい時間を過ごすことができた。

台本を読んだ後は、象にまつわる質問に答えて、中野の象検定のバッチをいただいた。

次回では、哲学公園にまつわる話を書くので、ぜひ読んで欲しい。

卒寮RA企画
～さようならWISH～

Writer: Yukie
Translator: Hanna
Designer: Rika



FAREWELL WISH

連載企画『RA & Resident's ライフ』。今回はこの春卒寮するRA2人に話を伺いました。

さて、前号で特集したResident'sライフ『私の地元の秋時間』はお楽しみいただけたでしょうか。沢山の寮生に協力いただき、北は東北から南は沖縄まで、心潤す秋の風景をご紹介できたかと思います。このように、WISHには日本各国、世界各国から寮生が集い、生活をしています。私も4年前、18年間過ごした地元から上京しWISHに入寮した寮生の1人でした。WISHでの国際色豊かな仲間との交流は、まだ狭い世界しか知らなかった私にとって刺激が多く、大いに成長させてくれる経験でした。大学2年次からアメリカでの交換留学を経験し、現地で寮に入っていましたが、イベントやSIなど将来に繋がる出逢いや学びを得ることが出来るWISHは唯一無二であると感じ、帰国後はRAとしてWISHにお世話になることになりました。このように元は寮生、そして今度は寮生を支える立場としてWISHに戻ってきたRAが多くいます。その中から、今回はこの春WISHを卒業するRA2人にインタビューをしました。コロナ禍で海外からの留学生が減ったり、イベントが中止になったりと困難なことが多かったこの2年間、RAを引っ張ってくれた2人です。WISH・RAに対する熱い想いを聞きました！どうぞお楽しみ下さい。

11階RA しおね

・自己紹介
法学部4年のしおねです！出身が静岡なので、天気の良い日にWISHから富士山を眺めるのが好きでした。WISHで過ごした4年間はかけがえのない思い出です。

・なぜRAになろうと思ったんですか？
「WISHをもっと活用してほしい」と思ったからです。WISHには、様々なバックグラウンドを持った寮生がいます。私はSIプログラムやイベント、寮外研修を通してたくさんの寮生と交流したことで考えの幅を広げることができました。今度はRAとしてSIやイベントを企画する立場として寮生に自分の経験を還元したいと思ったのがきっかけです。

・WISHでの思い出はありますか？
2019年の夏に国内研修で2週間北海道に行ったことです。北海道の農家の皆さんにお世話になり、養蜂や酪農、トマト栽培を学びました。初の北海道で、自然の雄大さに感動しました。生産者の方の「良いものを届けたい」という思いも直接知ることができたのでとても貴重な経験でした。WISHの研修プログラムに数多く参加させていただきましたが、どれも興味深いものばかりです。ぜひ積極的に参加してみてください！

・自分的中野の楽しみ方はありますか？
歩いて気になった店にふらっと立ち寄ってみるのがオススメです。中野駅から少し寄り道をしながら歩いていると、穴場のお店に出会えます！時間がある日には、バスに乗って途中下車の旅をしています。小旅行をした気分になれますよ：）

・RAとしてのやりがいはどんなところに感じていますか？
イベントやSIを企画できるところです。「こんなイベントあったら良いな」という想いを仲間とともに形にできた瞬間が最高に楽しいです。企画したイベントで寮生が「楽しかった」「また参加したい」と言ってもらえることもあって、RAになって良かったと心から思っています。

・WISH・RAでの経験が、卒業後の進路に繋がっていると思うことはありますか？
卒業後はテレビ局に就職します。WISHのRAとして「チームでより良いモノ創り上げた」経験が今の進路に繋がっていると感じます。何度かテレビの現場を見せていただきましたが、チーム一体となってより良いコンテンツを提供するという姿勢はRA活動にも通ずるものがあると感じました。今後、RAとしての経験はどの場面においてもきっと生きてくると思っています。

・最後に寮生に伝えたいこと
WISHでの出会いや経験、学びを大切にしてください！日々の経験一つひとつが皆さんの成長の糧となります。大学時代は、長いようであっという間です。一歩踏み出す勇気を持ってあらゆることに挑戦してみてください！

6階RA けいん

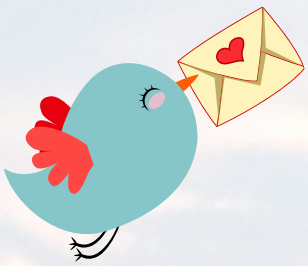
・自己紹介
商学部4年のけいんです！高校までの18年間を浜松市で過ごした後に、早稲田大学に入学しました！旅行が趣味で、大学生の間に海外20か国・全国各地を飛び回りました！卒業しても旅行しまくりたいです！

・なぜRAになろうと思ったんですか？
寮生の可能性を広げられる存在になりたかったからです！
僕は母子家庭・地方出身を背景に、自分の限界を決めつけていた過去があります。でも、WISHで世界各国・全国各地から集う仲間と日々を過ごしたおかげで、大きく視野が広がり、将来の選択肢に希望を見出すことができるようになりました。
RAとしての在り方は様々だと思いますが、日常的に寮生同士の対話を促すことで、一人でも多くの寮生の可能性を切り拓きたいと考えています。

・WISHでの思い出はありますか？
寮生時代に、7階の仲間と過ごした毎日が思い出です！当時のルームメイトは台湾人とモンゴル人で、３つの文化が交り合う非常にインターナショナルな環境でした。凄く仲が良かったのですが、入寮当初は英語が全然できなかったので、勉強しなきゃ！と思うことができました。自分がバックパックや長期留学の道を選んだのも、この環境が大きく影響していると感じます。本当にフロア全員が仲良くて、未だに高い頻度で遊んでいます！7階の仲間と一緒にタイ・カンボジア・ベトナム・韓国・台湾に旅行に行ったのは最高の思い出です！

・自分的中野の楽しみ方はありますか？
ずばりレストラン巡りです！中野駅北口・南口、ともに沢山レストランがあります。特にランチは価格帯がお手頃かつ非常に美味しい場所が多いので、毎日行ってもネタに尽きません。中野で行く店に悩んだら僕に連絡してください！

・RAとしてのやりがいはどんなところに感じていますか？
他では在り得ないくらい優秀かつ、多様なバックグラウンドを持つ仲間と毎日を過ごすことができる点です。これはRAの仲間に限った話ではなくて、いつも仲良くさせてもらっている寮生たちにも、日々驚かされています。こうしたレベルの高い環境下で議論を交わしたり、一緒に活動することで、自分の成長に繋げることができていると感じています。おかげで毎日が本当に刺激的で、楽しいです！



・WISH・RAでの経験が、卒業後の進路に繋がっていると思うことはありますか？
間違いなく繋がっています！そもそも就職活動を同期RAの島田・大橋とともに進めたのですが、自分が始めた段階から既に二人は進路に対して強い軸が設定されていて、焦りに焦ったのを覚えています。でも、二人のおかげで自分が将来に求めるものは何なのか、今何を優先すべきなのが明確になり、最終的に完全に納得のいく進路を決めることができま

した。正直感謝しても感謝しきれないです。他にも先輩RAに多大なるアドバイスを頂いたり、他の同期RAと悩みを相談したりと、困難の多い就職活動を乗り越えることができたのは、RAの環境があったからだと感じています！あと、RA活動は基本的に組織単位で行われるので、自分が組織に属した時にどういった役回りが適切なのか等、自己分析の際に参考になる経験が多かったと認識しています。

・最後に寮生に伝えたいこと
WISHはあなたの”家”であり、一緒に過ごす仲間は”家族”です。大学生活は大きく環境が変わり、苦難や困難が多いかもしれません。でも、そんな毎日を支えてくれる環境がWISHにはあります。WISHという最高の環境を手にしたのならば、最高の仲間を見つけましょう。誰にも負けない最高の大学生活が始まります。

2人とも忙しい中ありがとうございました。しおねとは寮生の頃から同じ11階に住んでおり、RAになってもみんなを優しく引っ張ってくれる存在でした。けいんとは同じ時期にRAになり、常にRAの士気を挙げてくれる存在でした。今回初めてのインタビューを通して2人の想いに迫れた気がします。WISHにはこのような素敵な仲間が溢れています！是非皆さんもWISH内での一期一会を大切に有意義な大学生活を送ってください。

THANK YOU!!

Contributions

Writers

Chrisanne

Daichi

Translators

Haruki

Hanna

Designers

Rika

Shiki

Honami

RA Supporters

Moeka

Miho

Yukie

Ren

Yui